慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	New directions in cultural psychiatry : 文化とこころ : 精神医学・ 人類学・ 歴史学の対話
Sub Title	
Author	北中, 淳子(Kitanaka, Junko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2008
Jtitle	活動報告書 Vol.2, (2008.) ,p.38- 38
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20090300-0038

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

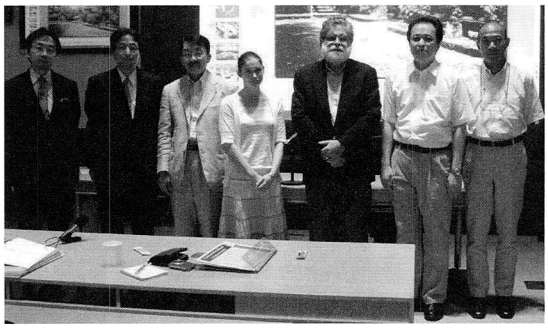
The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

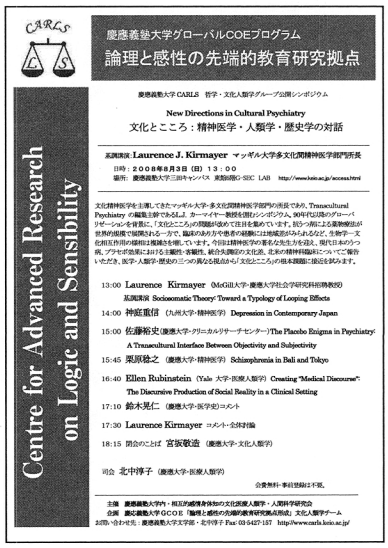
4 New Directions in Cultural Psychiatry
文化とこころ：精神医学・人類学・歴史学の対話

開催日　2008年8月3日
企画班　哲学・文化人類学班
企画者　宮坂敬造、北中淳子
講演者　Laurence J. Kirmayer（McGill University）、神庭重信（九州大学）、Ellen Rubinstein(Yale University)、佐藤裕史、栗原稔之（塾内医学部）、鈴木晃仁（塾内経済学部）

90年代以降の精神医学のグローバリゼーションを背景に、「文化とこころ」の問題領域が改めて注目を集めている。うつ病等の薬物治療が世界的規模で展開される一方で、臨床のあり方や患者の経験には地域差がみられるなど、生物学―文化相互作用に関する問題はますます複雑さを増している。このような問題意識から、哲学・文化人類学班の文化人類学グループでは、マッギル大学・多文化間精神医学部門の所長で、Transcultural Psychiatry の編集主幹であるL. J. Kirmayer 教授（社会学研究科特別招聘教授）を迎え、8月3日三田キャンパスにおいて「New Directions in Cultural Psychiatry 文化とこころ：精神医学・人類学・歴史学の対話」と題した国際シンポジウムを行った。カーマイヤー教授にはSociosomatic Theory: Towarda Typology of Looping E. ffects に関する講演で文化精神医学最新の知見をご紹介いただき、九州大学精神科教授・神庭重信先生には現代日本のうつ病について、慶應義塾大学医学部クリニカルリサーチセンター・佐藤裕史先生にはプラセボ効果における主観性・客観性の問題、慶應義塾大学医学部精神科・栗原稔之先生には東京とパリの統合失調症の文化差、またYale 大学人類学部のEllen Rubinstein 氏には北米精神科実践に関する医療人類学的研究について講演いただいた。慶應義塾大学経済学部・鈴木晃仁先生と、文学部宮坂敬造先生から全体総括のコメントがあった。社会科学、精神医学領域における著名な学者が数多く参加し（参加者数は70名）、最後まで活発な討論が続く、大変盛況な会となった。また海外からの研究者の参加も多く、日本の精神医学の状況と医療の人類学的研究に対する関心の高まりを感じさせた。

（北中淳子）





CARLS

慶應義塾大学グローバルCOEプログラム
論理と感性の先端的教育研究拠点

Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility

慶應義塾大学 CARLS　哲学・文化人類学グループ公開シンポジウム

New Directions in Cultural Psychiatry
文化とこころ：精神医学・人類学・歴史学の対話

基調講演: Laurence J. Kirmayer マッギル大学多文化間精神医学部門所長
日時：2008年8月3日（日）13：00
場所：慶應義塾大学三田キャンパス　東館南館G-SEC LAB　http://www.keio.ac.jp/access.html

文化精神医学を主導してきたマッギル大学-多文化間精神医学部門の所長であり、Transcultural Psychiatry の編集主幹であるL.J. カーマイヤー教授を招けシンポジウム。90年代以降のグローバリゼーションを背景に、「文化とこころ」の問題が改めて注目を集めています。薬物療法が世界的規模で展開される一方で、臨床のあり方や患者の経験には地域差がみられるなど、生物学―文化相互作用の様相は複雑さを増しています。今日は精神医学の著名な先生方を迎え、現代日本のうつ病、プラセボ効果における主観性・客観性、統合失調症の文化差、北米の精神科臨床について報告いただき、医学・人類学・歴史の三つの異なる視点から「文化とこころ」の根本課題に接近を試みます。

13:00 Laurence Kirmayer（McGill大学-慶應大学社会学研究科招聘教授）
基調講演 Sociosomatic Theory: Toward a Typology of Looping Effects
14:00 神庭重信（九州大学-精神医学）Depression in Contemporary Japan
15:00 佐藤裕史（慶應大学-クリニカルリサーチセンター）The Placebo Enigma in Psychiatry: A Transcultural Interface Between Objectivity and Subjectivity
15:45 栗原稔之（慶應大学-精神医学）Schizophrenia in Bali and Tokyo
16:40 Ellen Rubinstein（Yale 大学-医療人類学）Creating "Medical Discourse": The Discursive Production of Social Reality in a Clinical Setting
17:10 鈴木晃仁（慶應大学-医学史）コメント
17:30 Laurence Kirmayer コメント・全体討論
18:15 閉会のことば 宮坂敬造（慶應大学-文化人類学）

司会 北中淳子（慶應大学-医療人類学）

会費無料・事前登録は不要。

主催 慶應義塾大学内・相互的感情身体知の文化医療人類学・人間科学研究会
共催 慶応義塾大学GCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」文化人類学チーム
お問い合わせ先：慶應義塾大学文学部・北中淳子 Fax: 03-5427-157　http://www.carls.keio.ac.jp/